

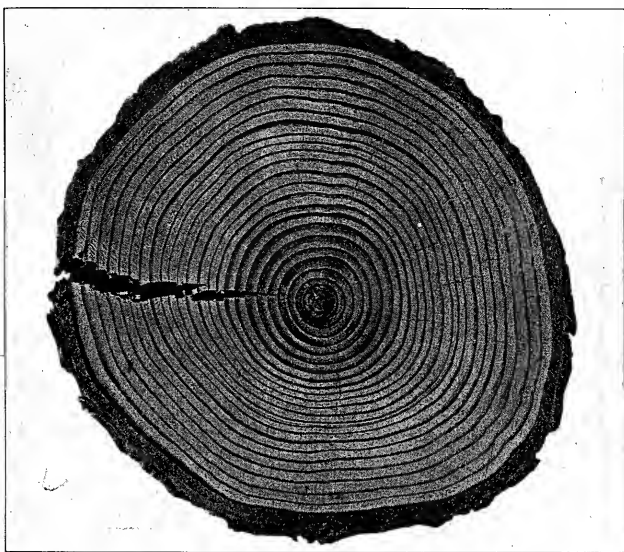
シタモノト見ルノガ妥當ノヤウニ思ハレル敢テ識者ノ教ヲ乞ハント欲スルノデアル  
 序ナガラ一言加ヘテ置キ度イノハ前記ノ如ク蒔蒔ハ容易ニ開花セシムルコトガ出來ルノデ開花作用ト生長作用  
 ト植物體中ノ成分トノ關係ヲ研究スルニハ好イ材料デハアルマイカト思フ又蒔蒔ニ肥料ヲ施ス方法ハ普通ノ植  
 物トハ反對ニナツテ居ルコトデアル其レハ塊莖ノ下ニ肥料ヲ施サズシテ先ヅ塊莖ヲ地中ニ埋メ込ミ發芽ヲ俟テ  
 芽ノ周圍即チ塊莖ノ上ニ施肥スルコトデアル何トナレバ根ハ塊莖ノ頂上芽ノ周圍カラ發生スルカラデアル天竺  
 牡丹ノ塊根ヲ植エルトキノ心持チデ施肥スルト間違フカラ念ノ爲メ附記シテ置ク

## ○年輪トハ何ゾヤ

東京帝國大學農學部助教授 理學士

小 南 清

年輪トイヘバ小中學デ理科ノ授業ヲ受ケタ者ナラ確ニ知テ居ル筈デアル、然ルニ専門學校以上ノ學生デモ問題  
 ガアマリニ卑近スギル故デモアラウカソノ定義ヲ明確ニ答ヘ得ナイモノガ甚ダ多イ、ソレデ私ハ能ク此問題ヲ  
 學生ニ課スル事ガアツタ、或ル友人カラ何故此様ナツマラヌ問題ヲ出スノカト嘲ラレタ事モアツタソコデ『然  
 ラバ君、年輪ノ定義如何』ト尋ネタトコロ答ヘテ曰ク『秋材ト春材トノ境界ニ現ハル、線輪デアル』ト『ソウ  
 デス、君ノ様ナ答案ヲ書クモノガ多イノデ此様ナ問題ヲ出スノダ』ト述べタトコロソノ友人ハ啞然トシテ答フ  
 ル所ヲ知ラナカッタ、實際試験ヲシテ見ルト百人中半數以上ハ斯ク答ヘル様デアル、マタ往々夏秋ニ生ズル緻  
 密ノ材部デアルト答フルモノモ少クナイ  
 元來術語トイフモノハ人ノ勝手ニ作ツタモノデ定義ハ如何様ニモツクシ、マタ知識ノ進歩ト共ニソノ定義ニ變  
 更ヲ餘義ナクサル、場合ハ往々ニアルガ年輪ノ様ナ卑近ノ術語ノ定義ヲ二三ニシテ置ク事ハ甚ダ面白クナイ事  
 ト思フ



つが (Tsuga Sieboldi Carr.) ノ年輪

吾々ハ年輪トハ一年間ニ出來タ材部デアツテ厚ミノアルモノト解シテ居ル、ソノ境界ニ現ハル、線輪ハドイツ語デ Jahresgrenze (年界) 又ハ Jahresringgrenze (年輪界) ト

名ケテ年輪ト區別シテ居ル勿論此界線ガ現ハレテコソ年輪ニ一年二年ノ差別ガ明カトナルノデアアルガ植物學者ハ如上ノ定義ヲ下シテ居ル、ソレニモカ、ハラズソノ界ヲ年輪ト名クルモノ、多イノハ恐ラク教科書ナドデ斯ク教ヘテ居ルモノガ有ルノデアラウト想像スル、古書ヲ探ルマデモナク最近發刊ノ植物書ヲ繙クナラバ直チニ此ノ間ノ消息ヲ知ル事ガ出來ル、今左ニ三ツノ新刊書ヲ引用シテソノ定義ノ區々タル事ヲ指摘シテ見ヤウ

(一) 松本巍 著 植物生物學 (大正十四年七月一日發行第百七十五頁)

『前略 尙夏と冬との間に著しく氣候の差異ある地方に生育する植物にあつては、一般に形成層は冬期間其働きを休止し、翌春になつて又新しく分裂を開始して新組織を形成するものである。而して春期に形成された組織は一般に其細胞が大形で、膜も薄いけれど、夏より秋にかけて形成されたものは小形で膜は厚く、且つ緻密に結合されて居るので、其結果第八八圖に示す様に年々特殊の輪層を現すに到る。斯くの如く一般の植物にあつては、毎年成長するにつれて、前年と翌年の春期に形成された

組織との間に、明瞭な所謂年輪 (Annual ring) を生ずるものである。云々』  
 此ノ文ヲ「前年に形成された組織と翌年の春期に形成された組織との間に」ト解スレバ「年輪界」ヲ年輪トシ  
 テ居ルノデアルシ「前年の春期に形成された組織と翌年の春期に形成された組織との間に」ト考フレバ秋材ヲ  
 年輪ト名ケテ居ル様ニモ見エル、頗ル曖昧デアル、第八十八圖ヲ見ルト年輪界ノ傍ニ g ナル符號ヲ附ケテ年輪  
 ト註ヲ加ヘテアル

(二) 末松直次 著 應用植物學汎論 (大正十三年七月二十五日發行、同十四年一月五日訂正再版第八十四頁)

『氣候の變化に依て裸子植物でも一般雙子葉植物同様に成形層の作用に盛衰があり、之により年輪が出来る。  
 即ち春期新梢の形成せらるゝ節には他の時節に比し大きな假導管が出来、春材には盛んに水分を輸送した大さ  
 な管が残り秋材には小さな管が形成される。そして毎年八月の末から翌春迄は材部の形成は殆んど止まるが故  
 に、其處に肉眼でもはつきり區別が出来る丈けの境界を生じ以て樹齡を數ふる事が出来る。云々』

コレハ讀者ガ年輪ノ定義ヲ知テ居ルモノトシテ記述サレテ居ル様デドゴガ年輪デアルカ此ノ文ダケデハ判斷ニ  
 苦ムガ著者ハ第八十二頁第六十六圖ノ一ニ「年輪の部」トシテ年輪界ノ圖ヲ舉ゲテ居ル、同圖ハ其ノ序文ニア  
 ル通りストラスブルガノ植物學ノ原書第十五版 (一九二一年版) 一三二頁一七二圖 A ヲ採タトスルト原書ノ圖  
 ノ説明ニハ「年界ニ於ケル松材横斷面ノ一部」トアルカラ矢張り年輪界ヲ年輪ト混同シテ居ル様ニ見エル、尤  
 モストラスブルガノ原書ニモ年輪ノ定義ハ讀者ガ知ツテ居ルモノトシテ記述シテアルケレドモ第一七六圖即  
 チ「秋期ニ截斷セル松ノ四年生莖ノ一部」(此ノ圖ハ前掲松本氏ノ書物ニ第九十六圖トシテ引用サレテアルガ  
 符號ヲ抹殺シテアル) ニハ年輪ヲ 1 2 3 4 ノ符號デ示シ一年二年三年四年ニ出來タ材部ニ當テ年界ヲ i デ示シ  
 テ一目標ヲ挾ム事モ出來ナイ様ニナツテ居ル

(三) 田原正人 著 植物形態學汎論 (大正十五年二月十六日發行第百二十四頁)

岩代猪苗代湖畔赤井谷地ノ植物

『溫帶地方ニ於テハ冬ノ間、毎年定期的ニ形成層ノ働ガ止ム。形成層ノ一ツノ停止時期ト次ノ停止期トノ間ニ於テ形成層ヨリ構成サレル材部ヲ一ツノ年輪ト呼ブ。云々』  
 少シモ非ノ打チドコロモ無イ様ニ簡單明瞭ニ定義サレテ居ル  
 年輪ノ定義ガドウノコウノト今更ラシク聲ヲ大ニシテ詮議立ラシ此ノ貴重ノ紙面ヲ汚スノハ私ノ好ム所デハナイガ日ニ月ニ新ナル植物書ヤ論文ノ出ル毎ニ勝手ナ譯語、術語ガ出來ソノ解釋ガ區々トナツテ現ハル、ノヲ見テハ植物學ノ進歩普及ノ上ニ甚ダ憂フベキ現象ト思フ、術語ハ記述ヲ簡潔明瞭ナラシメンガ爲ニ使用サルベキデアルノニ意義ガ異ナル様デハ却テ不便極マルモノトナツテシマウ、使用スルモノハ周到ナル注意ガ必要デアル敢テ年輪一個ノ問題デハナイ此ノ様ナ例ハ幾ツデモ舉ゲル事ガ出來ルガ今ハ最モ卑近ナ例ヲ引キ合ニ出シタマデバアル

## ○岩代猪苗代湖畔赤井谷地ノ植物

東北帝國大學理學部 生物學教室

中 島 庸 三

本誌第三卷第十一號ニ掲載サレタ緒方正資氏ノ『エデプトノバビルスヲ想起セシムルくわんゑんがやつり』ナル記事ノ中ニ該植物ハ不忍池ニ素バラシイ生長ヲ遂ゲテ居ルガ元來コノ植物ハヤタラニアルモノデナク牧野博士ノ説ニヨレバ恐ラクハ水鳥ガ朝鮮アタリカラ持ツテ來タノダラウトノ考ヲ有セラルトアルノヲ讀ンダ時余ハえぞぜきしやうニ就テ同ジャウナコトヲ書イタコトガアルノデイタク興味ヲ感ジタ、ソレハ嘗テ『科學知識』(大正十一年四月、六月號)ニ「鳥ト植物ト人生」ト云フ題デ拙文ヲ掲ゲタコトガアルガ其ノ中ニ水生植物ノ分布ト鳥類トノ關係ヲ外國ノ研究報告ニ據ツテ記シタ後次ノヤウニ述ベテ置イタ

「余は嘗て亞米利加の報告に依つて、エゾゼキシヤウ(ホロムイサウ)の種子は鴨の一種によつて食はれるこ